

子ども・若者が笑顔で過ごせる ために必要な取組みについて

森田 明美（東洋大学名誉教授）

なぜ子ども・若者を真ん中におくか

1. これまでの子ども・若者支援は、多くの世代をまきこみ、街づくりの核にすることができた。これからの10年はどうであろうか。

2. 現在、区の子ども若者は人生の約50年を過ごせるか

－世田谷区への「愛」はどこにある？

⇨区内での次の家族形成はできない、想像しにくい。

世代分断が激しくなっている

⇨結婚・子育てを希望しない人が急増

家庭・家庭以外の居場所の有無

(全国「子どもの6人に1人が家庭に居場所がない」)

- 65%居場所と感じる・家庭以外にも居場所がある
- 19%家庭を居場所と感じる・家庭以外には居場所がない
- 8%家庭を居場所と感じない・家庭以外に居場所がある
- 9%家庭にも家庭以外にも居場所がない

(資料) 日本財団「18歳意識調査 第24回 -子どもと家族-」
(<https://www.nippon-foundation.or.jp/>)

※対象：17～19歳の男女(n=1,000)

※調査：令和2年3月

子ども若者と世田谷区

1. 今住んでいる子ども・若者

居心地：家庭、学校、地域

人の関係：保護者・教師との関係が良い場合の継続と悪い場合の代替

- ・ 貧困と暴力、安心なき安全が子どもの居心地の悪さを作り出す
- ・ 今の主体が保障されていない未来の主体としての期待

2. 世田谷区を利用している子ども・若者

多様な活動の場（地域）と人の魅力

面白さはどこにある:ex下北沢



居住と就労：バランス

交流：出会い、やり直し

多様な関係性：自由とゆるみ

世田谷区で暮らし続ける時の環境要因

居住環境

- ・ 多様な世代・価値をもつ家族全員にとっての自宅の住みやすさ
- ・ 地域の安全性や価値

生活・文化環境

- ・ 多様な文化・価値を受け入れる社会の実現：広報・啓発
- ・ 不安・困った時の社会的支援の充実
- ・ 市民活動（若者の起業など）を積極的し、かつ伴走の充実